

牧羊ひろば

長崎めぐみ教会・クリスマス劇 湖西教会・教会学校

今号は「長崎めぐみ教会」と「湖西教会」のCSを紹介していただきました。長崎は、まだCSという形に至っていないのに、子どもたちを集めてクリスマス劇を実施したことにビックリ！湖西教会は、長年の地道な種まきが実を結んでいることに刺激を受けました。

「長崎めぐみ教会」

長谷部裕子

新しい町での子ども伝道「めぐみキッズ」
長崎めぐみ教会は時津町という新しい町に越してきて丸二年が経ちました。教会学校は生徒不在のために旧会堂時代から長らく休校状態が続いています。教会を移転して気がついたことは、高齢化世帯が多い旧市街に比べ、時津は新興住宅地で若い家庭も多く子どもたちがたくさんいることでした。子どもにアプローチをかける最初のきっかけは二〇〇八年七月に神学校キャラバンが「めぐみキッズ」というネーミングで子ども集会を開いてく

れたことです。当日子どもたちは予想を遥かに超えて三十二名が集まり狭い会堂にひしめき合う夢のような光景でしたが、翌日の教会学校に彼らをつなげることはできませんでした。それでもキャラバンがもたらした子ども伝道の灯火を何とか消さないで存続してゆこうと、同年九月から月に一度「めぐみキッズ」を続けました。月例集会になつてからの集会人数は十名以下と人数は多くありませんが、集会を楽しみに来てくれるリピーターも与えられ、新しい町での子ども伝道の小さな種まきはこうに始まりました。



08年7月・神学校キャラバン

人形劇上演に向けての大チャレンジ

二〇〇九年から奉仕に加わったU姉が昨年夏にある提案を出されました。めぐみキッズにリピーターで来てくれる子どもたちに呼びかけて、クリスマスの子ども集会で彼らが人形劇を上演するという楽しい計画でした。教会はこの提案を受けて九月中旬から三ヶ月を費やして準備に明け暮れました。上演する劇は「くつやのマルチン」と決まり、毎週水曜日午後三時半から、子どもたちには台本の読み合わせをさせました。セリフをすらすら読む高学年に比べ、低学年の子はたどたどしく

ようやく読み終えます。集まる子どもが毎週同じではないので毎週配役が変わったり、セリフの長い主役のマルチンはみんなが敬遠したりと、予想外の出来事に対応しながら、飽きっぽい子どもたちをなだめすかし、忍耐の練習は続けられました。

練習の合間には、U姉に手ほどきを受けて、劇に必要な六体の人形を三人の奉仕者で製作を進めました。人形製作は思ったより多くの複雑な工程を経て完成する難作業でした。まず人形の頭は立方体の発泡スチロールを丸く削り、接着剤に浸した薄紙を二度貼り付け、乾かしたら、その上に肌色のアクリル絵の具を塗ります。髪の毛は毛糸を束ねて頭に接着して、次は衣装です。キャラクタ―に合わせて衣装をフェルトで縫ったら、頭と接合して最後に顔を描きます。その他にも劇で使う小物製作、人形劇の舞台設置、背景、効果音など、次から次へと仕事は山積でした。やっと完成した人形



09年12月クリスマス人形劇上演



08年めぐみクリスマス



マルチン劇の人形



人形の材料

た。ところが、テープに合わせて人形を動かす本番直前の練習をする段になると、子どもたちは飽きてしまい、ふざけ合って練習に身が入りません。正直なところ、この人形劇は本当に上演できるのか、最後まで私たちは頭を抱えつつ祈りました。しかし神様は万事を益と変えてくださいました。子どもクリスマス会当日には保護者も見にこられ、出演者の子どもたちは、本番では観客の前にすると一生懸命演じてくれて、大喝采のうちに幕を閉じました。すべての労苦はこの日をもって報われました。

も、子どもたちの手にか

かると放り投げたり引つ張ったりと、ぞんざいな扱いにヒヤヒヤさせられ、私たちを嘆かせました。

人形を動かしながらセリフを言うのは子どもたちには至難の業ですから、あらかじめセリフを収録しなければなりません。配役が全員揃うように録音日を調整して、当日はマイクを囲んで子どもたちを座らせ、セリフ以外は絶対に声を出してはいけません、と念を押して収録がやっと完了しました。

毎週水曜日の集会「Jキッズ」へ転換
人形劇の練習で週日に集まるのが習慣になった子どもたちがベースとなり、水曜日の放課後三時半から一時間程度「Jキッズ」という集会を、クリスマス後から始めました。日曜日の教会学校までには、まだ遠い道のりですが、教会に親しみを感ずる子どもたちが集まることで、ご家族との関係も自然に始まりました。とは言え、地方ではノンクリスチャンで初めて礼拝に来る方は稀で、人の心の壁は未だに厚いと感じます。それに比べて子どもたちは、偏見やこだわりなく教会にやってくる。地方では児童伝道が、家庭、学校、地域の伝道の突破口になると神様に期待しています。



「湖西教会・教会学校」

伊藤 初

【歴史】

湖西教会は、滋賀県高島市（旧・高島郡）新旭町にあり、今年で創立六十四年目になります。当初から子どもたちへの伝道に重荷をもたれた先生方や兄弟姉の尊い働きによって、今日まで教会学校が続けられて来ました。

教会員の中には子どもたちのころ、教会学校を通して福音に触れて救われ、今まで信仰生活が続けている方もいらっしゃる。また、現在、近所から集まっている子どもたちの大半が、両親が子どもたちの教会学校に行っていたという家庭の子たちです。六十年以上にわたってまき続けて来たみ言葉の種

が、決して無駄にはなっておらず、着実に伝道の実が結ばれて来ていることを思い、感謝しています。

【毎週の教会学校】

日曜日の教会学校は、午前九時から、礼拝三十分、分級三十分という内容です。教師は教職二名、信徒四名ほどです。集う子どもたちは平均八名のクリスチャンホームの子と地域の子が半々ぐらいの割合です。毎月第一日曜日には、礼拝の後、誕生日会を開き、ケーキの飾り付けやクレープ作りなどを行っています。

その月の誕生日の子にはプレゼントを用意し、しばらく離れている子を教会に誘う機会にしています。また、二ヶ月に一度、大人の礼拝のプログラムの中に、教会学校の生徒と合同の賛美があります。（大人の方も二〜三週間前から、礼拝前に子ども

の賛美を練習しています。子どもにとつては大人の礼拝に馴染む機会になり、大人の方にとっては教会学校に関心をもつ



誕生日会

誕生日会・ケーキ作り

ていただく機会となればと願っています。

【年間行事】

毎年夏には、「湖西祈りの家」を利用し、一泊二日のキャンプをします。内容は集会の他に、大人



サマーキャンプ・流しそうめん

と一緒のバーベキュー、花火、ゲームなどです。昨年は、兄弟の協力により、自宅の庭から竹を採ってきてもらい、流し

そうめんを流しました。今までは楽しく遊ぶ事(食べる事?)

が中心でしたが、今は、集う子どもたちが、高学年になってきていることから、み言葉に向き合う時を増やしていきたいと考えています。



クリスマスオペレッタ

またクリスマスには、生徒たちでオペレッタ(賛美が間に含まれる劇)を練習し、大人の祝会と、子どもクリスマス会において二度発表しました。祝会では、当日来ることができなくても、ビデオに録画したものを

しみ会などで行なっているお菓子のつかみ取りも盛り上がっています。

【伝道方法】

子どもお楽しみ会、クリスマス会の前には、近隣の小学校の前でトラクトを配布します。子どもたちの反応が良く、持って行ったトラクトが余ることとはほとんどありません。それでもそのトラクトを見て集会に来てくれる子はわずかです。それ以上には多いのは、友だちに誘われて来る子たちです。このことから、教師が外に出て行って伝道することももちろん大切ですが、友だちを誘いやすい教会学校、もう一度行きたくなるような教会学校にすることが、伝道につながっていくことを学びました。また、子どもたちのご家族に教会学校のことを理解していただくために、保護者を対象とした「教会学校だより」を年に数回発行しています。

【今後の課題】

冒頭にも書きましたが、地域に教会学校が浸透しているため、地域から子どもたちが割合に多く集まっているというのが湖西教会の特徴です。しかし、高学年になると習い事で毎週は来られなくなり、中学に入ると部活でほとんど来られなくなるというのが現状です。また、最近では子どもたちを取り巻く状況も複雑になってきており、家庭に問題を抱える子やいじめなどの話も耳にします。しかし一昨年のことですが、感謝なことに一人のクリスチャンホームの子が信仰告白に導かれました。さらには今、継続的に集っている六く七名の高学年の子たちが、明確な信仰に導かれることを願っています。お祈りください。

「おわりに」

『牧羊者』二〇一〇年度第Ⅱ巻をお届けできますことを感謝します。執筆者の方々には、年度変わりのあわただしい中を、また、イースター前後の貴重な時間を割いて執筆していただき、心から感謝いたします。

今回は、今年初めに実施しました「牧羊者使用状況アンケート」を集計しました。アンケートへの回答だけでなく、執筆者のコメント、出版する側のCS局の考え・方針も掲載し、誌上で三者の会話を実現しました。牧羊ひろばでは、長崎めぐみ教会のクリスマス人形劇、湖西教会のCSの取り組みを紹介していただきました。終わりに今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

聖書講解 鎌野善三師 水川武志師 大頭眞一師

研究資料 福井文彦師 高橋頼男師

メッセージ例 中島啓一師 宮澤清志師 井上義実師

ワーク(A) 松浦みち子師 飯田勝彦師 和田治師

ワーク(B) 吉田美穂師 鎌野幸師

(B) 野勢かほる師 佐藤直哉師

(C) 小泉創師 田代美雪師

(D) 上森恭子師 竹崎光則師 杉山俊一師

中高へのヒント 朝川清英師 石田高保師

子ども聖書日課 小野淳子師

フラッシュカード 土屋直子師 丹羽遥師 児玉敬子師

イラスト 伊中めぐみ師 児玉敬子師(ワーク表紙)

ワーク打ち込み 楠淳子師 長尾明美師

校正 長田栄一師 光田隆代師

長尾秀紀師 長尾明美師

また、陰で労してくださった各師と兄弟姉妹、ワーク印刷と発送のベラカ出版、印刷のあくもとと菱三印刷に心から感謝いたします。(長尾秀紀)

聖書教育教案誌 牧羊者

二〇一〇年度Ⅱ巻 二〇一〇年七月一日発行

発行所 有限会社 ベラカ出版

企画監修 日本イエス・キリスト教団教会学校局

神戸市兵庫区塚本通三三一九

電話(〇七八)五七五五一一

FAX(〇七八)五七五五一一

印刷所 菱三印刷株式会社

電話(〇七八)五七六六三九六一

*日本聖書協会『口語訳聖書』使用許諾済み